

「県立高等学校の今後の在り方」についての地方別懇談会 【紀中エリア [海草・有田・日高地域] 会場】概要

(令和2年10月7日(水) 18:30~20:10 きびドーム 文化ホール)

- 1 挨拶 和歌山県教育委員会 教育長 宮崎 泉
- 2 説明 和歌山県教育委員会 教育企画監 清水 博行
- 3 質疑

[質疑においていただいたご意見やご質問]

○今後の進め方について

- ・今後も話し合いの場を持ってほしい。
- ・生徒数が少ないというだけで単純に判断せず、学校の在り方を考えてほしい。
- ・小規模校が切り捨てられないか心配である。
- ・日進月歩のICT環境や新型コロナの影響も踏まえて考えていってほしい。
- ・1学年6学級や、現状29校から20校への再編の方向で進んでいくものと理解してよいか。

○教育の内容、学校の状況について

- ・地域やJA等でどのような協力が可能かを考慮してはどうか。
- ・個に応じた教育は、生徒や保護者のニーズに合ったものを提供してほしい。
- ・支援を必要とする子供やその保護者の思いを汲み取ってくれていてありがたい。
- ・教育は個の完成が狙いだと思うが、地域人材の育成に主眼があるように見えてしまう。
- ・高校入試に競争がなくなっている。競争があつてこそ、意欲の向上や社会の発展がある。
- ・答申は、私立高校のことも考慮しているか。

○地域の状況等について

- ・地域コミュニティのためにも、高校卒業までは生まれ育った地域で過ごしてほしい。
- ・日高地方で1校となると、選択の余地がなくなり、活性化に繋がらない。
- ・専門学科が紀北と紀南に1校ずつとなると、遠距離通学になる可能性がある。
- ・分校は本来の目的を果たしていないが、地域の活性化に一定の役割を担っている。

[質疑における県教育委員会の回答及び見解]

示唆に富むご意見を多数賜りありがとうございます。ご意見の中には、こちらが現に目指しているもの、また目指そうとしているものもあり、皆様のご意見に力をいただきました。

高校の再編整備は、地域や同窓生の方々の思いや願いを大切にしつつ、一方で、立ち行かなくなる前に行動を起こすことも重要だと考えています。再編整備にあたっては、これまでの成果を踏まえ、足りない部分については改善や補完を行いながら、皆さんの不安や懸念を払拭していきたいと考えています。

答申はかなり具体的な内容となっておりますので、教育委員会は、これを踏まえて再編整備実施プログラムを作成してまいります。ただ、答申に書かれていることのすべてが規定事項ではありませんので、再編整備実施プログラムを作成するにあたっては、柔軟性をもって各事項を検討してまいります。

教育委員会は、これまで、子供たちを地域で育てていくことを目指してまいりました。それゆえ、学校が地域の核であることに今後も変わりはありませんし、そうなるためにも、地域の支えもいただきながら、引き続き魅力ある県立高校を作る努力をしていきたいと考えています。